

L9 ANSWER 1 OF 1 WPIX (C) 2002 THOMSON DERWENT
AN 1984-078801 [13] WPIX Full-text
DNC C1984-033803
TI Sound absorbing spray materials for walls - containing EVA resin as aggregate.
DC A82 G02
PA (HOKU-N) HOKUSHIN CORP
CYC 1
PI JP--59030871 A 19840218 (198413)* 2p <--
ADT JP--59030871 A 1982JP-0141375 19820813
PRAI 1982JP-0141375 19820813
IC C09D-005-00; C09D-007-12
AB JP 59030871 A UPAB: 19930925 Pref. (1) includes EVA and EVA-PVdC or PVC copolymer. Since (1) is prepared by crushing EVA resin foam sheet in average granular dia. of 2 mm, waste resins formed by punching various cushions are utilised. Spraying material is prepared by mixing (1) with binders, pigments, surfactants, hydration accelerators for cement, water-retaining agents, etc. Since (1) is bulky foam, the uneven wall coated with the present spraying material can be hot-pressed with an iron, etc. so as to crush the foam cells and form a pattern. (1) has good weatherproof property, heat resistance and solubility in various binders. Therefore, (1), even when applied to the wall of a room which tends to be rubbed by clothes, is not released. The aggregate having porous connected cells imparts high sound-absorbing property to the wall phase. 0/0
FS CPI
FA AB
MC CPI: A04-G07; A11-B05B; A12-B01F; A12-B01G; A12-R07; G02-A05; G02-A05F

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭59—30871

⑪ Int. Cl.³

C 09 D 5/00

// C 09 D 7/12

識別記号

1 0 5

庁内整理番号

6516—4 J

2102—4 J

⑬ 公開 昭和59年(1984)2月18日

発明の数 1

審査請求 未請求

(全 2 頁)

⑭ 吹付材料

5 株式会社北辰内

⑮ 出 願 人 株式会社北辰

羽曳野市島泉9丁目172番地の

5

⑯ 特 願 昭57—141375

⑰ 出 願 昭57(1982)8月13日

⑱ 発 明 者 萬本好孝

⑲ 代 理 人 弁理士 千葉茂雄

羽曳野市島泉9丁目172番地の

明 細 書

1. 発明の名称

吹付材料

2. 特許請求の範囲

エチレン・酢酸ビニル共重合系樹脂粒体を骨材とすることを特徴とする吹付材料。

3. 発明の詳細な説明

本発明は、建築物の外装や内装に用いる吹付材料に関するものである。

吹付材料は、骨材、バインダー及び顔料を在装成分として組成されるものであり、骨材には寒水石、ヒル石等の無機質粒体が、バインダーには白色ポルトランドセメント、カラーセメント等のセメント類や不飽和ポリエステル樹脂、エポキシ樹脂、フuran樹脂等の合成樹脂類が使用されている。

然るに、従来の吹付材料の骨材は硬質の無機質粒体であり、又、吹付施工は壁面に骨材による凹凸模様を形成するために行われるのでバインダーの配合量が少なく、従つて、スプレーガンより噴射された骨材が壁面で反射して飛散ロスとなるも

のが多く、又、施工仕上壁面の凹凸が硬く素肌を傷める危険性をはらみ、それ故に内装に使用されない。

そこでゴム弾性体を粉砕して骨材に試用してみたが、日常汎用されるアクリロニトリルブタジエンゴム、スチレンブタジエンゴム、天然ゴム等は老化して破壊され易く、特に空気や日光に触れる装面積の割合の高いそれらの発泡多孔質粒体の脆化が甚しく、それ故に樹脂発泡体が骨材に実用されることなく今日に至っている。

そこで本発明者は、種々の合成樹脂粒体を粉砕して骨材を調製し、比較実験をし、又、エチレン酢酸ビニル共重合体のエマルジョンが種々の物質に接着する汎用性接着剤としての性質を有することを見出し本発明を完成するに至つた。

即ち、本発明は、エチレン・酢酸ビニル共重合系樹脂発泡体を骨材として吹付材料に配合することを要旨とするものである。

ここに本発明にあつてエチレン・酢酸ビニル共重合系樹脂とは、エチレン成分と酢酸ビニル成分

との共重合体のほか、これらの成分に塩化ビニリデン成分や塩化ビニル成分をも含む三元共重合体等をも意味する。

エチレン・酢酸ビニル共重合系樹脂粒体に成る骨材は、その樹脂発泡体シート等を平均粒径が2%前後になる様に粉砕して調製することもでき、この様な粉砕による調製は種々のクッション材として打板加工した隔乗物を原料として行うことができ、この様にして調製された骨材は慣用される配合容積比率をもつてバインダーや顔料と混合され、所望の界面活性剤、セメント用水和促進剤、保水剤等を適宜添加して吹付材料が組成される。

而して本発明によると、エチレン・酢酸ビニル共重合体系発泡骨材は、耐候性や耐熱性に優れて施工壁面に脆化が生ぜず、汎用接着剤としての成分を有するので種々のバインダーに相容性を示して壁面に強固に接着し、従つて衣服の擦過し易い内装壁面に施工されても使用中に剝離脱落がなく、その骨材の有する多孔質連胞セルは施工壁面に現われた凹凸と相乗して壁面に高い吸音性を付与し、

そして骨材が熱可性のエチレン酢酸ビニル共重合体を材質とし、嵩高な発泡体であるために、意外にも吹付施工後の凹凸壁面をアイロン等で圧熱してその発胞セルを圧潰し模様状に付形することが出来、エンボス模様の壁紙を貼着施工したと同様に、しかも眩目というものを全くつくらずに美麗豪華な壁面に仕上げる事ができる等々従来例に見ない極めて顕著な効果を奏する。

特許出願人 株式会社 北 辰

代理人 弁理士(RIAG) 千葉茂雄